

宮ニ改定ス

太政大臣三條實美

内務卿 山縣有朋

農商務卿(東京府) 小幡

文部卿 山縣有朋

陸軍卿 山縣有朋

海軍卿 山縣有朋

逓信卿 山縣有朋

司法卿 山縣有朋

大政大臣三條實美

内務卿 山縣有朋

農商務卿(東京府) 小幡

文部卿 山縣有朋

陸軍卿 山縣有朋

海軍卿 山縣有朋

逓信卿 山縣有朋

司法卿 山縣有朋

大政大臣三條實美

内務卿 山縣有朋

農商務卿(東京府) 小幡

文部卿 山縣有朋

陸軍卿 山縣有朋

○明治十六年六月廿二日
澳地利國政學博士
勳二等勳章旭日重光章
○明治十七年一月十八日
任東京府麻布區長兼赤坂區長
○明治十七年一月十九日
任農商務省書記官
兼任參事院員外備官補
任大藏省書記官
農商務省書記官
兵庫縣一等屬
得能 通昌

時事新報

米國來稿

拜啓各位益々清寧奉賀陳ハ小生儀も渡米以來既ニ全三ヶ
年餘ニ相成候所共爲差事モ出來不申汗顔之次第御懸笑可
被下扱小生ハ素ヨリ商業ノ目的ヲ以テ只管其事ノ忙
ハシク致居リ候得共父傍ハ學問教育ノ事モ全ク放却ス
ル能ハズ商賈ノ餘暇ニハ諸方ノ學校へ尋問シ又ハ學問社
會ノ士人ト交際モ致シテ當國教育ノ風ヲ見聞スルコ前中
日本ニ居テ考ヘタル所ヲ以テスレバ往々意外ノ事共少
第一米國ハ世界中最も自由主義流行ノ國ニテ政体モ自由
ナリ法律モ寛大ナリ居家ノ有様モ自由自任ニシテ人間萬
事無賴着ナラント思フ外決シテ左様ノ次第ニ非ズ政体ノ
名コソ共和政治ナレモ中央ノ政權ハ甚ク強入ナルモノニ
シテ法律ノ行ハル、コ基ヲ確實ナリ政府ヲ去テ社會ノ全
般ヲ見レバ習慣ヲ重シズルコ基ヲシテ居家ノ法自由
ナラズ、交際ノ風無賴着ナラズ、長者能ク少者ヲ親愛スト
雖モ少者ニシテ長老ヲ輕侮スルヲ許サズ殊ニ貧富ノ別ノ
如キハ最も嚴重ナルモノニシテ殆ト相近シクモ得ヘカ
ラズ日本ナレバコソ粗衣粗履ノ貧生ニテモ大家ノ門ニ
入シテ談話自由ナレモ當國トドナテ斯ル事モアランコハ
主人ニ無禮ナリトテ先ツ門街ニ打拂セラル、ナ常トス衣
袋正シカラザレバ人ニ侮ラレテ言語粗暴ナレバ人ニ唾ハレ
又或ハ國中ノ某地方ノ如キハ飲酒喫烟ヲ禁ヒ一地方ノ男
女酒ト烟草ハ禁物ニシテ若シモ此禁ヲ犯ス者アレバ人ニ
齒セラレザルノ風ナリ斯ル次第ナルヲ以テ偶々日本ヨリ
渡來シタル少年輩アトハ一時大ニ窮困ヲ覺ヘテ不自由ヲ
訴ル者多シ畢竟當國ノ自由ト申スハ所請不自由ノ中ニ存
スル自由トモ名ク可キ歟或ハ政体法律ハ自由ナルモ人民
ハ社會ノ風ニ壓制セラレテ秩序ヲ紊ラサルモノト申ス可
キ歟實ニ想像外ノ事共不少候左レバコソ數年以來日本ノ
衛生豐富國ニ卒業シテ歸朝シテ者ヲ見ルコ之ヲ平均ス
レバ著實沈鬱ノ人物多キトノ報告モ事實ニ可有之彼ノ歐
洲諸國ノ大都會ニ遊學シテ費ス所ノ金ハ多クシテ學ビ得
ル學藝ノ實ハ少ナク途ニ一身ノ品行ヲモ傷ル輩ニ比ス
レバ萬々同日ノ論ニ非ズ小生事ハ本年モ亦春ヨリ秋ニ掛
クテ南州ノヲノ英佛日耳曼等國遊學シテ序ナガシ例ノ如ク
學校教育ヲ觀察シ觀中在留日本書生ノ様子ヲ述ベテ何レ

モ勉強ハ致シ神妙ニ相見ニ候得共コレ平均スレバ在米
國日本書生ノ質朴コレ沈鬱ナルコハ及バザル者ノ様ニ
判斷致候又愛ニ傳承シタル一奇談ハ日本ノ人が亞米利加
ノ合衆國ハ共和政治ナリト聞キ其國中ノ人民ハ悉皆政談
家ニシテ貴賤老少ノ別ナク朝夕政事ノコトヲ語リ合ヒ少
年輩ナドモ、ヤンカク政談ニ熱スルコトナラシ今日日本ニ
テ政談ハ喧シク禮節モ粗漏コナリテ萬事ニ無賴着ナルハ
全ク米國ヨリ輸入シタルモノナリナド申ス者モ少ナカラ
ザル由小生モ毎度鄉國ノ知己朋友ヨリ右様ノ手紙ヲ得テ
ルコ有之候所共コノ一事ハ小生當國ニ在留シテ外人ノ身
ナレハ亞米利加ノ爲ニ冤ヲ解カザルヲ得ズ成ル程亞米利
加ハ共和政治ニ相違無之候得共米國ハ政治ノミナリテ成
立ツ國コ非ズ、否ナ政治ハ國事ノ一小部分ニシテ他コ忙
ハシキハ學問ナリ商賈ナリ工業ナリ其繁多ナルコ實ニ世
界力無比ニシテ學問商上等ノ勢力強大ナルガ爲ニ政談
ノ如キハ俗ニ所謂茶挽者コシテ社會運動ノ要路ニ横
ハルヲ得ズ試ニ當國發見ノ新聞紙ヲ一覽シテモ其大概ヲ
知ル可シ何レノ新紙ニテモ其面ニ記ス所ハ大抵皆商工學
問等ノ事ニシテ政事論ハ紙面ノ一小部分ヲ占ルノコ之ヲ
要スルニ米國ノ人ハ政治ヲ重シセズシテ商工學問ヲ重シ
ズル者ト申ス可シ政治ヲ重シセザルガ故ニ之ニ熱スル者
モ出デズ政治ニ極端論、稀ナルハ特ニ米國一種ノ氣風ト
云フモ可ナラン之ヲ彼ノ歐洲大陸佛蘭西日耳曼等ニ動モ
スレバ貧富平均社會黨ナド云フ政論ノ奇烈ナル極端ヲ案
シ出ス者ニ比スレバ雲泥ノ差違ニ候然ルモ其邊ノ事實ヲ
モ忘却シテ米國ヲ共和政治ト聞ケバ其學問ノ教育モ共和
ニシテ人民皆歸スル所ヲ知ラザルガ如キ不取締ナラント
思ヒ日耳曼ノ帝國ト云ヘバ其國ノ教育モ帝國風ニシテ全
國ノ學者皆忠義一偏ノ人物ナラント臆測スルガ如キハ薩
ナガラ氣ノ毒ニ堪ヘズ社會ノ安寧ト學問商工ノ繁昌ハ國
ヲ立ルノ基ナリ何卒我國先覺ノ士人ハ此一義ニ注目シテ
教育上ノ利益ヲ失ハザル權致シ内國コト少年ヲ教ヘ外國
ヘ子弟ヲ遊學セシムル等ノコトハ最モ心ヲ用サザル事ニ候
小生ハ久シク海外ニ居リ毎度歐米ノ間ヲ往復シテ常ニ必
コ感スルモノ少ナカラズ且外國居留ノ身ナレバ故郷ノ細
事情ハ之ヲ知ラズ唯日本ト外國トヲ區別シテ一心本國ヲ
思フノ外ナラザル端所思ヲ盡クズ推讓奉願候也
明治十六年十二月十一日紐約ニ於テ

○行幸 聖上ハ日本
て吹上禁苑へ行幸在
の由に承る
○行啓 皇居宮内
邸へ行啓遊ばさるべ
の事ニ御座の聞其
何分落成間ハ合兼ね
お御見合に相成りし
る、都合ありと云ム
○井上參議 豫て旅行
内豆州熱海表へ着す
りと又同參議には來日
○西郷農商務卿 同
后五時新橋發の演車
海へ寄港の上神戸行の
熱海の温泉へ赴きたる
○野村農務總官 同
る萬國郵便聯合會ハ
○宴會 伊藤參議ハ
の鹿鳴館に於て皇族大
白餘名ヲ招請して新年
館に於て品川農商務大
新年宴會を開きたり又
書記廳委任以上の人々
○再審査委員長 三好
學生再審査委員長伊
○飯島武之助氏 米國
島武之助氏は去年寺島
が去る十九日横濱發の
府へ向け出發したり
○拜命 海老原大藏少
命せられたり
○一覽の爲先國境へ赴きた
○東京 義兵天城縣下
書記官中村六氏は御田
○大塚控訴裁判所附
は去る十八日大塚控訴
○民有地買上 今度農井
るに付ては右要所の地
爲り陸軍參謀本部より